

外科専門医に聞く

副院長（地域医療連携室長・外科部長）

かどや なみたか
角谷 直孝



外科と地域包括ケア病床



来年2月より富山ろうさい病院に地域包括ケア病床が導入される予定です。地域包括ケア病床では急性期の治療が終わった方が在宅や施設での生活にスムーズに移行できるように日常生活復帰への支援やリハビリを行いながら入院を続けることができる回復期の病床です。

著者が医師になった30数年前には外科で胃癌や大腸癌の手術を受けた方は手術後短くても1か月、高齢者ですと1.5～2か月の入院生活を送ることが普通でした。その後、医療技術の進歩や医療行為に対する診療報酬制度の改定などにより入院期間は徐々に短縮し、最近10～15年で外科手術後の入院期間は大幅に短縮されてきました。

特に、胃癌や大腸癌に対する腹腔鏡下手術の普及後では70歳未満の方ですと10日から2週間まで、高齢者の方でも2週間プラスアルファで退院されることが多くなりました。手術後に傷は治り、医師から退院許可が出たものの体力、気力が戻らず不安を抱えながら退院していた高齢者の方も多かったものと考えられます。

これからは外科で大きな手術を受け、在宅復帰を目指す方は最長60日間の地域包括ケア病床での入院が可能となりました。地域包括ケア病床の導入は国の地域医療構想に基づいたもので、当新川医療圏では団塊世代が後期高齢者の仲間入りをする2025年には急性期病床は過剰となり、ICUやHCUなど特に濃厚な医療を行う超急性期の病床や回復期の病床は不足するという予測に基づいたものでもあります。

富山ろうさい病院ではこのような観点から地域包括ケア病床を1病棟、52床導入すると共にHCUを4床から5床に増床の予定です。これまで以上に、癌その他の大きな手術後には多くの方がHCUで手厚い看護を受けることが可能になります。病状の回復によりHCUを退室後は急性期の病床に移り入院生活を送り退院を迎えることとなりますが、退院許可の時点で高齢、独居の方、老々介護の方、若夫婦と同居しているが昼間はみな仕事に出ていて在宅での生活に不安があるなど退院後の在宅生活に不安のある方は主治医と相談の上、地域包括ケア病床に移ることが可能です。さらに、これまで以上に入退院を円滑に行えるよう専属のスタッフを配置した入退院支援センターが稼働する予定です。

今後とも富山ろうさい病院をよろしくお願い申し上げます。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail: chiki2@toyamah.johas.go.jp